

児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

1 基本情報

- ◇各教科等 生活単元学習
- ◇学部・学年 小学部 第3学年
- ◇単元名 「パーティーをひらこう」
- ◇単元の目標
 - ・教師の支援を受けながら、簡単な手伝いや係の仕事をするができる。
 - ・司会などの簡単な係の仕事を経験することができる。
 - ・パーティーのプログラム作りを通して、文字を書くことに興味をもつことができる。
 - ・パーティーで使う物をはさみやのりなどを使って、作ることができる。
 - ・パーティーの振り返りを身振りや音声、簡単な言葉で行うことができる。
- ◇付けたい力
 - ・見通しを持って自分で考えたり工夫したりしながら活動する力。
 - ・友だちと適切に関わる力。
- ◇本時の目標
 - ・活動に必要な道具や材料を考えて準備したり、道具を適切に使ったりして、パーティーの飾りを作ることができる。
 - ・必要な道具や材料等を友だちに配ったり渡したりすることができる。

◇児童生徒の実態

男子児童4名の単一障害学級である。うち3名は自閉症、1名はADHDを併せ有する。多動性のある児童が多く、集中や注視の面で困難が見られるため、全体でのモデルの提示や指示は通りにくい。また、言語指示の理解の難しさから、見通しを持ちにくい児童も多い。指導者に対しては自らコミュニケーションをとろうとする児童が多いが、友だちと自発的に関わることはほとんどない。

2 期待する児童の姿

- ・見通しを持って飾り作りをする姿。
- ・材料や道具を配ることを通して友だちと関わる姿。

3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

・普段は新しいことに挑戦しようとしにくい児童が、毎時間違う飾りを選んで作っていた。また、指示待ちのことも多いが、本時では自分から材料や道具を準備していた。

→夏頃から「クリスマス」という単語をよく口にしていた児童であったため、「クリスマスパーティー」という設定にした。また児童自身にパーティー名を考えさせたり、タブレットで「パーティーのための飾り作り」という見通しを持たせたりすることで主体的な活動を促すことができた。

・指導者が提示した写真カードを見て、一人で道具を取りに行ったり、「できました」のハイタッチを自分からしようとしたりしていた。

→日常的に、何かできた時にはハイタッチをすることで「できてうれしい」、「褒められてうれしい」という気持ちを高めるようにしている。